

街角に残された歴史をたずねて



写真①



写真②



写真③



写真④

今回のコラムは、とある小道に隠された謎解きのご紹介。

それは、宮崎県は西都市の一角、県の西都総合庁舎の前の道（県道24号線）を北に向かってすぐの「三笠」交差点の手前、居酒屋の脇から右手に入っていく小道である（写真①）。先日、ついに機会を得て、小道を歩くことができた。以下、そのドキュメント。

まず、緩やかにかに右カーブする先へ進むと、すぐに舗装が途切れて、小道幅の狭い草むらとなる。そして、交差する舗装道路をはさんで、車が入ることはできないほどの幅で続きとなりそうな砂利敷きの小道が伸びている（写真②）。もともと一続きなのであるが、舗装されていたり草むらであったり砂利道であったり・・・やはり何か変だと思いつつ進んでいくと驚いた。小道は鳥子川の護岸で行き止まりであるのに、あたかも橋でつながっていたかのように、対岸にも小道が続いているのだ（写真③）。注意してみると、小道沿いの古手の家のいくつかは、小道に面して玄関がなく、裏庭風の構えとなっていることにも気付く。そしてこの小道、交差点の先も続き（写真④） ついには西都カトリック幼稚園に突きあたって終了となる。

この小道の正体とは・・・西都市内に長くお住いの、ある年齢以上の方であれば、もうおわかりのことでしょう。近くの畑で出会った女性に何うと「トロッコの走っていた跡だよ」「西都総合庁舎前の24号線沿いもトロッコ道だったけど、すっかり判らなくなった」とのこと。

その後、調べたところ、この小道は「折登森林鉄道」の痕跡であり、同鉄道は、三納の奥にある国見山一帯の山間から、トロッコに木材等を積んで国鉄妻駅まで運んでいたことを知った。また、『西都原古墳群総括報告書』^{※1}に収められたモノクロの航空写真^{※2}の1葉には、1963（昭和38）年9月当時、三納の松本塚古墳を避けつつ敷設されていた同鉄道の様子が写っている。

宮崎の森林鉄道（森林軌道）は、今回紹介した小道をはじめ県内各地にその痕跡を見ることができ、森林資源の豊かな宮崎の歴史の象徴と言える。このような、街角に残された地域の歴史を楽しむのも実に面白い。

（藤木 聡）

※1 2015年3月に宮崎県教育委員会から刊行。

※2 石人石馬の会所蔵・九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室保管。